

第8回 長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会 要点録

日時 令和7年2月3日(月)14時00分～15時56分
場所 長浜市役所 5-B 会議室
出席者 (委員) 水本座長、大橋副座長、西川委員、西田委員、塚田委員、
森委員、中川委員、水谷委員、福永委員、辰野委員、文室委員
(事務局) 織田教育長、内藤部長、山岡次長、高山次長、為永管理監、
稲葉課長代理、成田室長、廣部副参事、藤田指導員
欠席者 喜田委員

1. 開会(14:00)

<織田教育長あいさつ>

- ・これまで7回の会議、視察等感謝する。
- ・意見をもとに基本方針を策定していく。少子化、教員不足と課題はあるが、子どもたちのためにより方針を打ち出していきたい。

<出欠報告>

- ・欠席者報告
- ・会議は公開

2. 議題(14:02)

(1) これまでの会議の振り返り(14:02)

◇資料に基づき事務局から説明

- ・本日の意見を受け、修正した意見最終形は座長副座長に一任を。
- ・検討委員会としてはこれで一区切り。検討委員会の意見を受け、令和7年度末に基本方針策定。

◇質疑応答(14:07)

- ・特になし

(2) 学校園を取り巻くデータ等から見える姿について(14:09)

◇資料に基づき事務局から説明

◇質疑応答(14:14)

- ・これは義務教育法上のものなのか。滋賀県の配置基準上の数か。
→いずれも同じ
- ・先生の配置に対する国の補助がある基準となる。

(3) 意見の取りまとめについて(14:17)

◇意見交換

- ・めざす姿の「クラス替えができる規模」。小さいところのよさも活かせるようなという話もあったと思う。この意見とどう合わせていくとよいのか。
- ・クレーム対応や相談窓口を設置するという意見を出した。外部の方をお願いするとかえって先生方の負担が増えるようにも思う。教員として相談対応できる方を置いてもらえるとういと思う。一方、先ほどの説明で補助の話も考えると難しいのかなと思う。
- ・管理職が対応すると明記しているが、相談しにくいのだろうか
- ・園だと毎日先生と顔を合わせるので話しやすいが、小学校は家を送り出したら、そこまでわからない。そのような状態で相談がしやすいかと言われるとわからない。管理職というと教頭先生や校長先生になるとなるが、気軽に相談できる感じはない。
- ・教育相談もある。管理職ではなく、養護教諭や担当教諭が対応する相談もある。
- ・どこに相談したらいいのかわからない保護者が多いのではないかと。
- ・人間関係の構築を書いてほしい。いろいろな人と関わる、クラスが変わることによって新たなポジションができる。「豊かな人間関係を」などがあるとイメージしやすいのではないかと。
- ・単級の学校に通っているが、クラスの先生が席替えを頻繁にしている、子どもは喜んでいて、人間関係構築のきっかけになっている。家庭訪問も希望制になった。参観日に行かないと、先生がどんな人なのかわからない。今から思うと家庭訪問も先生との関係をつくるにはいいきっかけだったのかもしれない。
- ・家庭との連携をしっかりとっていく必要があると思う。連携を密にする取組が必要なのだろう。人間関係も多ければいいというものでもない。席替え等ちょっとした工夫も必要。
- ・保育園に行っていた時は、4月に先生の顔写真が入ったおたよりを配っていた。冷蔵庫に貼って一年中みていた。小学校に行くとそのようなこともない。
- ・小学校のPTA、広報も希薄になってきている。先生と保護者の間にあったPTAがないことの影響は大きい。
- ・PTAも学校もなるべく負担のないようにとの動きもある。ペーパーレスの流れもある。
- ・個人情報保護を厳密に考えすぎると、何も知ることができなくなってしまう。
- ・規模が大きくなった時に、保護者に学校を身近に感じてもらう工夫が必要。家庭と学校のつながりを密にしていく必要がある。
- ・顔も知らない人に相談しようと思わない。
- ・PTAもほとんどが園でおぜん立てしている。地域によっては、やりたくないという人もいる。保護者からしましようかという声があるとやりやすいが、仕事もされていて、集まってもらうことも難しい。
- ・入学説明会も、動画配信にかわっている。行かなくてもいいのはありがたいが、学校に初めて行くのが入学式というのも不安。初めての子どもの場合、こんなことを電話で聞いてもいいのかわからない。
- ・説明会、学校、園との連携は必要かもしれない。
- ・園は丁寧に対応している。保護者に安心して8時間預けてもらえるようにと、細かい

ことでも連携している。学校に行くとギャップもあるのだと思う。あまりにも落差がないように、すり合わせが必要かもしれない。園小の接続が必要。

- ・先生と保護者の関係では、懇談会もなくなり先生と顔を合わす機会が減っている。先生の仕事も負担が増えている。PTAの企画運営は先生が担っている部分が多い。特に小規模ほどPTAの負担が多い。PTAがあるために役員選出、事業等仕事を増やしている。PTAの組織解体が広がっている。長浜にも広がっている原因のひとつ。先生と保護者が顔を合わせて何かをする活動が今はない。役員と先生のみ。学校がやってほしいこと(掃除や保守)を、ボランティアを募ってやっている学校もある。市教委でボランティアを募っている。ボランティアの方が参加しやすいとも聞く。PTAだと参加すると、次役員が当たってしまう・・・等。
- ・PTAや学校の在り方も見直す時期が来ているのかもしれない。地域やボランティアも大切。保護者同士のつながりについてはどうか。学校を選択できることと、地域と学校は一体であることの関係は悩ましい。保護者同士のつながりについて現状で問題等ないか。
- ・こども園なので働く母親が多く、保護者間のトラブルはあまり聞かない。小規模の幼稚園の母親からはもめると大変と聞く。そのもめ事を子どもにも持ち込むことがある。
- ・クラスの母親のLINEグループがある。学校行事のこと等が回っている。いい感じになっていると思っている。
- ・小規模園だと、そのライングループに入りたくない人もいる。孤立する人も少なからずいる。
- ・行事の手伝いも、強制ではないけど・・・と呼びかけても、それなりの人が参加してくれている。
- ・学校と保護者、保護者同士のつながりは、学校区が広がった時に、どのように変わっていくのか。
- ・視察先が少人数の学校園ばかりだった。このことを考えていけないといけないと思っていた。小規模校に自分の子どもが行くことになった時に、その学校に行きたいというのならいいが、2クラスぐらいの学校に行きたいと思っているのではないか。子どもの幸せに対して、どうするのかという意見が少ないように思う。「広域統合も」の「も」が気にはなる。クレーム対応は第3者でないと、先生にも子どもにも影響があるのではないか。
- ・一定の規模が大事という意見、クレーム対応や相談窓口をはっきりさせておくとの意見だった。
- ・統合していきそうな地域、学校を考えた時に、転出入がほとんどない地域。いずれ、中学校も単級になることが予想される。北中や南中は増えていると聞かすが、いずれは減っていく。学校がどう生き残るか。10年15年後にはニーズに合わせて選択される側になって来る。選択してもらえ学校になるためにはどうしたらいいのかを考えていけないといけない。地域性も考え方も違う。
- ・以前は特色ある学校づくりの風潮があったが、最近は言われなくなった。義務教育の

中で特色を前面に出しても、みんなに同じものを求めるのではないか(学習指導要領)というのもあり、悩ましい。

- ・地域に特色あるものがあるといいが、そんなところばかりでもない。地域の取組を6年生がしているが、継続しているうちに、目的がわからないまま続けてしまっているところもある。部活動も地域移行が進められているが、学校の特色にもなると思う。
- ・制度的には教育課程特例校等、特色を出せる学校をつくることはできる。地域の子どもたちはそこに行くことになる、普通の学校にいきたいという子ども、親もいるだろう。特色を出すことと、通学の時間が長くなることの兼ね合い等がでてくる。
- ・人口が減って過疎化して、村がなくなる。消滅都市になるかもしれない。特色がある学校を作っても、そこに人がいなければ意味がない。統合、合併しかないのか。衰退していくところより、便利なところで住みたいと思うだろう。
- ・子どもが減ってきたときに、そこから学校をどうするのかを、どんな風に進めて行ったらいいのだろうか。保護者はどんなふうに進めてほしいのだろうか。
- ・幼稚園に通う子どもも少なくなっている。統合の話も出てくると思う。園区が決まっているので、保護者の一存だけでも決められない。地域と保護者、学校(先生)が密になっておく必要がある。
- ・親も選ぶ覚悟が必要。統合することにより通学距離が延びる。
- ・吸収合併は無理かと思う。合併しなければならぬことはわかっている、なかなか合意は得られない。誰にも反対されない独自の場所に作るのがいいのではないか。グローバルな時代になってきているので、距離等だけを言っていられないのではないか。市長が政治生命かけてでもやってもらわないといけないのではないか。オンラインだけで授業等はないのだろうか。そういう時代になってきている。学校に行かせない親も出てくるのではないか。
- ・安心感があるだろう。その安心感をどう築くか。全校児童2名の学校長と話をした。近隣の学校までの距離が遠いと、統合の話も出てこないようだ。ベストはないのでベターな方法を取っていく。
- ・自分が中学生の時は、学校にある部活から選んでいた。今はクラブチーム。親も覚悟をきめて祖父母等にも支援してもらいながら、遠方のチームに通っている。学校もそのようになっていくのだろう。
- ・自覚を持ってくださいといっても難しい。地道に啓発していくことも必要なだろう。先ほどの意見にあったICTの活用も追加していいのではないか。
- ・今の状態で学校園が継続していくのは難しい。かといって、すぐにめざす姿にはならない。移行期間は当然出てくる。ここをじっくりと時間をかけて、話し合いや啓発していかないといけない。小規模校の特色を活かすことも大切。岐阜県の山縣市の山縣方式では、合同で週3日社会・英語・体育を合同で実施。交代で車移動してやっている。このやり方ならば、先生の数をあまり気にせずにできるのではないか。小中ともに指導できる先生がいれば、削減もできる。移行期間に進めるとよい。その間に保護者や先生、地域の方と話し合いの中で、統廃合ができる。当事者じゃないからこそ広い視線

で考えられる。

- ・山縣方式は統合しないけれども、小規模のデメリットを解消するもの。他に追加修正はないか。
- ・スクールガードがない地域もある。同じことを求めても、できる人は少ない。小分けすることによって、部分的ならできる人もいるかもしれない。
- ・子どもは「保護者からみた子ども」「先生からみた子ども」も含まれているので整理できないか。今の姿がこうだから、将来こうなってほしいと対応関係になるとよい。
- ・不登校→行きたくなるような学校づくりというような具合か。こちらで整理させてもらうことでよいか。場合によっては、文言の追加もあると思う。
- ・子ども基本法で子どもの意見を聞くことが大事となっている。子どもの声を聴くのも必要かと思う。
- ・このプロセスの中に、子どもの意見も取り込んでいくことができれば。

(4)総括

〈各委員の振り返り、希望等〉(15:30)

- ・いろいろな立場の人の意見を聞き、すごく勉強になった。時間的には、もう少し議論や視察があってもよかったと思う。自分自身にはプラスになった。
- ・生まれ育ったところで学ぶことはごく自然なこと。幼児期になると小学校を目指して校区の園を選ぶ人も多い。大きすぎる園や学校と比較して考えることも必要だったのではないか。
- ・学校の職員とは違う視点から意見が聞けてよかった。今後は統合していかざるを得ない。取り組んでいる思い等情の部分は大きい。統合した直後の学校を視察するとよかったのではないか。
- ・統合する西浅井、統合後の余呉等視察先もよく考えてもらっていた。統合が決まっているのであれば、バックデータがあればよかった。最後その結果は公表されるのか。
- ・学校の経験もないなか意見させていただいた。近隣市町の学校等も視察できるとよかった。いろいろな学校の現状を見させていただき勉強になった。
- ・学校を視察してビックリした。親や第三者の意見が多い。子どもの意見を聞いても、子ども自身もわからないと思う。子どものことを本当に考えないといけない。
- ・グループワークで楽しみになった。昔のことにとらわれることなく、現状に合ったものを考えていかないといけない。保護者や学校のつながり大事。
- ・自分の時と変わっていることを視察で学んだ。いずれ大きい学校も減っていることを「将来、全市的にこうなっていくよ。大人になった時にはこうなっているよ」と市民におろしていかないといけない。普段から園と地域はつながっていかないといけない。敷居を下げる雰囲気は今から作っていかないといけない。
- ・30年先のことを考えるイメージがつかなかった。いろいろな文化も発達、時代も変わっていく。将来を考えていくことが大事なことだと思った。園小中で話す機会がある。その中で幼少期の今の子育ても大事にしていって、長浜の子どもたちが健やかに育つ

ように考えていかないといけない。

- ・各地域でいろいろな課題があることを肌で感じた。やるべきことはきちんとやる。どうにもならない時には統合という姿勢が必要。
- ・学校というものが大きく変わろうとしている。世の中が大きく変わる中で学校の在り方が変わろうとしている。長浜市として、長浜市の学校をどうしていくのかを考える場だった。自治体がどうなっていくのか、学校はどうなっていくのかを考える場所だった。教育に関わる民主主義の場。行政任せにしない。地域で考えていくアイデアの出発点をこの会議で考えたのだと思う。それぞれの場で動いて行く時に、みなさんの力を発揮してもらいたい。

(5)その他(15:50)

- ・本日の意見を受け、修正した意見最終形は座長副座長に一任を。
- ・検討委員会としてはこれで一区切り。検討委員会の意見を受け、令和7年度末に基本方針策定。

3. 閉会(15:51)

<内藤教育部長あいさつ>

- ・活発な意見に感謝する。
- ・意見を取りまとめて、座長・副座長に確認のもと、教育委員会として意見を受ける。
- ・最終形はみなさんにも共有させていただく。
- ・委員会としては終了するが、まだまだ意見は頂戴したい。
- ・子どもを取り巻く環境は変化している。魅力ある学校園づくりに取り組んでいく。引き続き協力願いたい。
- ・H26年度1000人を超える出生数→昨年668人→今年12月までで467人。急激に減っている状況を受け、みなさまの意見を伺った。子どもの数が半分になっても、同じ学校数でよいのか。モノだけではなく、子どもにとって良い環境を整えるのが我々の使命である。今後ご指導ご鞭撻をお願いしたい。